

血中ペプシノゲン検査による胃健診

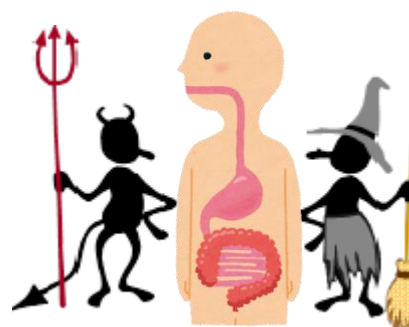
ペプシノゲンという物質の血液中の濃度を測定することにより、胃粘膜の萎縮、炎症、ピロリ菌感染の指標となります。

健常な胃にピロリ菌が感染すると胃粘膜の炎症を起こし、さらに慢性に経過すると、胃粘膜の萎縮をきたします。

血中ペプシノゲン検査で異常が認められた場合には、胃に所見がないか必ず確認しましょう。

ペプシノゲン検査とは

- ① 血液中のペプシノゲンの濃度を測ります。
- ② 食事をしても検査は可能です。
- ③ X線検査と違って、バリウムや下剤を飲む必要がなく、検査後の苦痛がありません。
- ④ 妊娠の可能性または妊娠中の女性でも安心です。



ペプシノゲン検査を受けた方へ

- ① C1(要観察)と判定された方は、6ヶ月以内に二次検査としてバリウム(胃透視)検査をお受けいただきます。
- ② C3(要精査)は直ちにバリウム(胃透視)検査をお受けいただきます。
- ③ 二次検査後、D(要受診)と判定された方は、念のためピロリ菌感染の有無を確認しましょう。
- ④ ペプシノゲン検査で異常なしと判定された方でも、胃に関する自覚症状が続く場合には、詳しい検査(内科受診)を受けることをおすすめします。

ペプシノゲン検査が受けられない方

- ① 食道、胃、十二指腸疾患で治療中の方
- ② 胃切除後の方
- ③ 腎不全または透析中の方

上記の方は検査値が不安定になるため、検査の対象外となります。